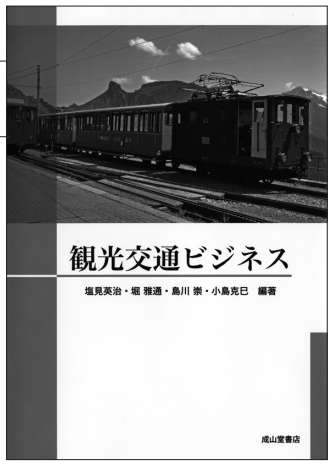
塩見英治・堀　雅通・島川　崇・小島克巳＝編著

観光交通ビジネス



2017年6月発行
本体2,800円＋税
成山堂書店
ISBN 978-4-425-92881-1

西井和夫
NISHII, Kazuo
流通科学大学経済学部教授

今やインバウンドや観光立国と言った言葉は世の中に溢れんばかりであり，また観光圏整備や地域創生・活性化の議論も国土計画レベルだけでなく地域・市・地区等エリアレベルのマネジメント論など多様であり，「観光（Tourism）」のもつ学際性や政策科学性が注視されている時代はこれまでにない．このような「観光」に関わるさまざまな諸相の中で，本書の著者らは，『観光交通ビジネス』と題して「観光交通」に携わる『業界』について，その発展経緯と現状を概説するとともに，これからの業界のあり方を展望することにより，観光学を学ぶ学生に対して「観光交通ビジネス」への関心と理解を深めてもらうことを意図したテキストとして位置づけている．

本書の構成とその意図については，第1章の章末に，『本論の前半では交通と観光との相互関係において交通機関，あるいは交通インフラ別に分析し，次いで，環境問題，マーケティング，まちづくりなど，主要な観光問題を取上げ，最後に，ダークツーリズム，MICEなどの今日的観光のトピックスと文化人類学など学際的視点での問題を考察している．このように，本書は，タイトルに「観光交通」をつけ，観光と交通に重点を置いているが，現代の観光論での重要領域を広範囲に取上げて考察している』と編著者の一人が述べている．

「観光交通ビジネス」という言葉が本書のキーワードであることは言うまでもない．本書の前半部の第2章で，観光交通ビジネスとは，『交通サービスの派生的需要と観光サービスの本源的需要を融合・一体化させ，新たな観光交通サービスを創出し，そのビジネスの展開の可能性がある』と捉えられ，利用交通機関別に，クルーズ観光，観光鉄道，観光フライトの3つの具体的な事例を紹介するとともに，観光地までの移動（一次交通）と観光地内交通（二次交通）とのシームレスな移動のための交通ネットワーク形成とそのサービス提供が新たな観光交通ビジネス創出・展開の前提条件としている．

これに続く第4章から第7章までは，交通機関別に，航空ビジネス，空港ビジネス，鉄道ビジネス，その他の交通ビジネス（貸切バス・タクシー・レンタカー・クルーズ・レンタサイクル等の諸事業）における観光交通ビジネスの現状と展望を紹介している．この中で，例えば航空ビジネス（国際航空輸送）におけるオープンスカイの潮流そして日本におけるLCCとアライアンスの展開，鉄道ビジネスにおける話題性のある観光輸送サービスの展開，そしてインバウンド観光に対応したレンタサイクルビジネスなど，それぞれの観光交通ビジネスの最新の取組み事例が解説されていて，「観光交通に携わる業界の最新事情」の理解に役立つ内容が含まれている．

本書の後半部は，「観光交通」からウィングを拡げて「観光」に関する今日的問題（トピックス）について取上げている．具体的には，第9章と第13章は，「観光まちづくり」およびその推進組織としてのNPO，第10章から第15章にかけては，種々のツーリズム，例えばエコツーリズム，都市ツーリズム，コンテンツツーリズム，ダークツーリズムそしてMICEの紹介，そして第16章は日本における観光みやげ論（「おみやげ」と「スーベニア」の違い等），そして最終の第17章ではホテル・宿泊業の構造変化についてのマーケティングの観点からの考察，である．これらは，読者が関心のあるトピックスを取捨選択しながら読み進むことで基本的な理解は得られるであろう．ただ，本書の主題である「観光交通ビジネス」における観光事業論との関係までには触れていないこと等，まとまりに欠ける印象を得た．したがって，本書の後半部の読み方は，読者側の関心や問題意識によってさまざまで良いと言えるが，そのことは，読後に「観光交通ビジネス」への展開のアイデアをどのように着想するかについても読者側に委ねられていると言えそうである．